

避難行動判定フロー

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

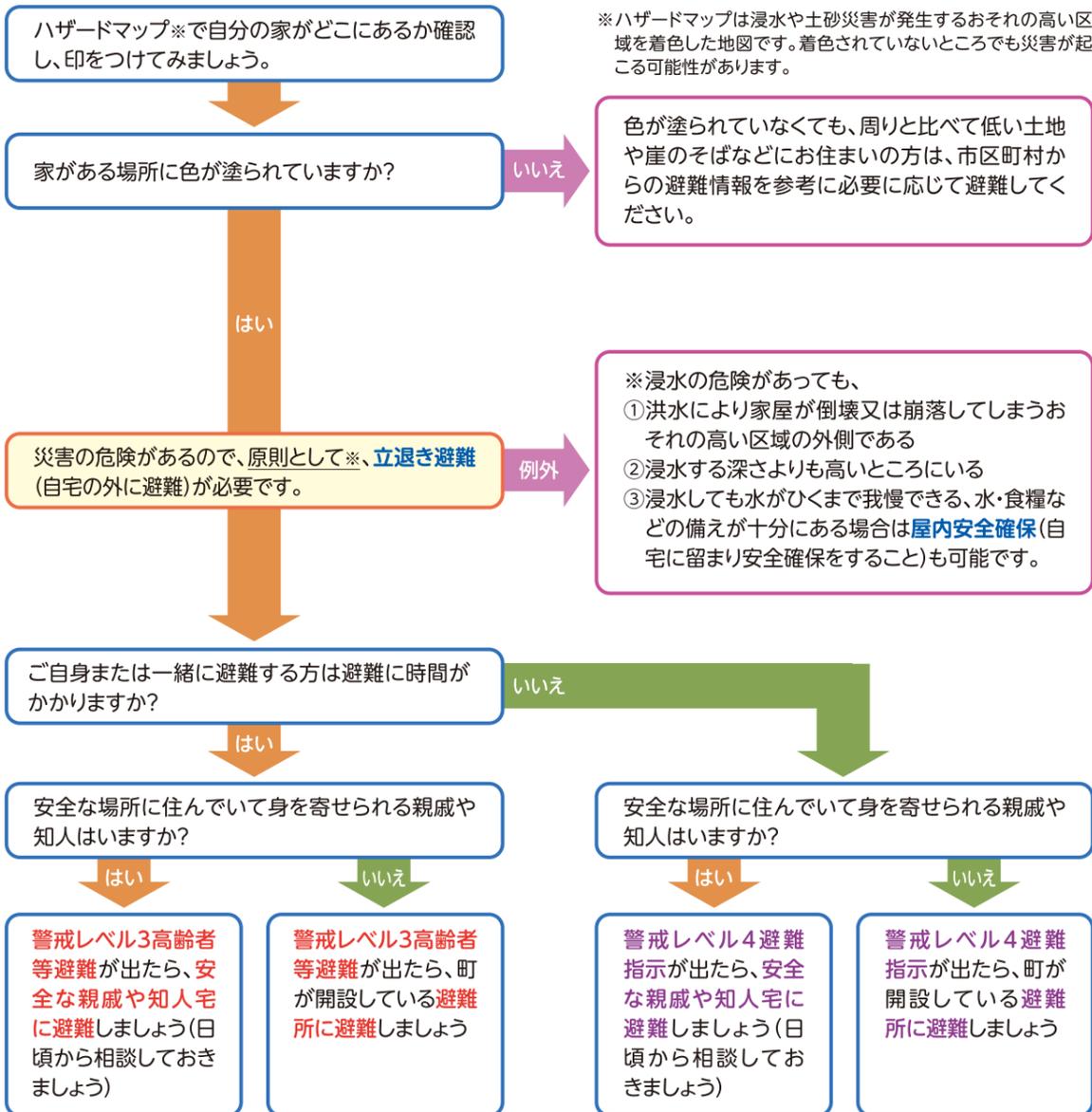
平時に確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

必ず
取り組み
ましょう



◎確認結果を表紙の「わが家の避難行動計画」に記入しましょう。

避難の4つの方法

- ⚠ 警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。
- ⚠ 「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。
- ⚠ 避難先は小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

※緊急時に身を寄せる避難先は、町が開設している避難所や、安全な親戚・知人宅など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

避難行動は、下の4つが考えられます。

1 行政が指定した避難場所への立退き避難

命を守るために緊急的に避難する場所です。

2 安全な親戚・知人宅への避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

3 安全なホテル・旅館への避難

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

4 屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認する必要があります。

--- 想定最大浸水深 ---

※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則です。

「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない（入っていると…）

流速が速いため木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高い

3.4階	5m～10m未満 (3階床上浸水～4階軒下浸水)
2階	3m～5m未満 (2階床上～軒下浸水)
1階	0.5m～3m未満 (1階床上～軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分（十分じゃないと…）

水、食料、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります

※①家屋倒壊等氾濫想定区域や③水がひくまでの時間（浸水継続時間）はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住まいの市町村へお問い合わせください。